

2024 年度前期 教育改善に向けて大学に支援を求める事項について

所属 文学部

氏名 池谷 知子

(1) 大学全体に対する教育改善に関する支援について記入してください

授業の ICT 化とアクティブラーニングのように、学生が能動的に授業を受けることができる環境を整えることはすべて大学の至上命題となっている。それらを実現するためには色々な設備機器が必要である。本学はほとんどすべての教室にプロジェクターが付けられており、それは評価できる点である。しかし、古いプロジェクターはルーメン数が弱く、画像がクリアではないものが含まれている。ICT に対応した授業をスムーズに行うため、古いものは交換し、新しいものの置き換えてほしい。

また、Sli.do のような教育支援ツールも日進月歩である。ソフトの点からの支援として、新しい教育支援ツールを学ぶ機会の提供があることを望む。

(2) 大学に支援を求める理由を記入してください

現在、多くの授業で「松蔭 manaba」が学生への連絡、課題、レポートの提出などに活用されている。また、それ以外にも Zoom、YouTube、vimeo などでの動画配信、Sli.do でのコメント共有など、担当教員がそれぞれ工夫を凝らしている。しかし、教員が色々な ICT を使った授業をしても、それらがすべての学生にとって視認しやすくなければ、教育効果が上がりにくい。教員が工夫している ICT 化がより効果が現れる設備にすることで、さらに教育効果が高まることが期待される。

(3) 教育効果について記入してください

教員の自己評価の中で、最近、グループワークを苦手とする学生が増えてきたように感じられる、学生の学力や取り組みが二極化しているという指摘があった。そのような学生を授業に上手く入れ込むためには、必要に応じて ICT 化を促進させることが重要だと感じる。まず、最初の 1 歩として ICT ツールを使って、コミュニケーションを活性化し、最終的にはグループワークなどお互いに議論を行うところを目指す。

提出日： 2025 年 2 月 13 日

2024 年度前期 教育改善に向けて大学に支援を求める事項について

所属 人間科学部

氏名 坂本 真佐哉

(1) 大学全体に対する教育改善に関する支援について記入してください

- ① 授業ツールの有効な活用方法についての継続的な情報提供
- ② 授業評価の重要性や意義について継続的に学生に伝えることや現在無記名であるアンケートを記名制にすることについての検討
- ③ 遠隔授業を自宅か大学の教室で受講することをルールとして徹底することの検討
- ④ ゲストスピーカーの回数制限をなくすことの検討

(2) 大学に支援を求める理由を記入してください

- ① さまざまな授業ツールがすでに有効活用されているが、ここの教員によってさまざまな工夫が行われており、個人差があることやそれらのツールは日進月歩であることから常に更新する必要がある。
- ② 授業評価アンケートを記入しない学生がいることや必要以上に否定的な記述が見られる。授業は学生と教員が協力して構成することや学生もすでに成人年齢に達していることを考えると評価や記載の内容に一定の責任を持たせても良いのではないかという意見があった。
- ③ 遠隔授業を移動中など戸外で受講するものがあり、危険防止の観点からも看過できない。大学としてのルールを再度確認し、学生に周知する必要がある。また、遠隔授業で顔出しさせるなどの工夫やルールが必要であると考えられる。
- ④ 特に理由についての記載はなかったが、授業の質を高める目的であると考えられる。

(3) 教育効果について記入してください

全ての学科でワークや動画視聴、ディスカッション、アイスブレイク、ICT 活用などの工夫により、満足度と理解度が高まっていることが記載内容から伺われた。

提出日：2024 年 12 月 26 日

2024 年度前期 教育改善に向けて大学に支援を求める事項について

所属 教育学科

氏名 松岡 靖

(1) 大学全体に対する教育改善に関する支援について記入してください

①実習参加による授業欠席への対応について

本学部生の多くは2～4年次に教育実習などの学外実習で授業を欠席せざるをえない。その場合に学生は欠席届を提出するので、成績評価で不利益にならないように、出席管理や課題出題などについて全学的な指針を示せば、大学全体の教育改善が進むと期待できる。

②配慮を要する学生への対応の充実について

自己点検・評価票にもあるように、授業でのグループワークなどが苦手な学生もいる。すでに新入生オリエンテーションから学内教職員が連携して、本学もこうした配慮に取り組んでいる。配慮願を提出していない学生も含めて、こうした対応を充実させれば教育改善がさらに進むのではないかな。

(2) 大学に支援を求める理由を記入してください

①実習参加による授業欠席への対応について、本学部の保育士養成課程では厚生労働省から授業時間の確保を義務づけられている。とはいえ実習で学生が欠席した場合、学生の欠席分に応じた補講を個別に実施することは、学年歴や勤務体制などの事情で現実的に難しい。そのため、担当者が専任教員か非常勤講師かを問わず、教育学科の専門教育科目でない科目でも、出席管理や課題出題などで学生の不利にならない指針があると安心だから。

②配慮を要する学生への対応の充実について、全学的に1年次科目を担当する専任を始めとする教員間で、学生同士のコミュニケーションを促進できる授業手法を学ぶ研修を実施してほしい。そして教育学部では保育実習や教育実習に向けて更なる指導の充実が求められる。クラス担任教員、実習指導担当教員、巡回指導担当教員、そして関係部署の職員も連携して、より組織的に個別の学生に対応できる仕組みが必要だから。

(3) 教育効果について記入してください

①すでに松蔭 manaba は授業で充分活用され、学生の満足度も高いと察せられる。松蔭 manaba での課題提出によって、学生の学修時間を確保できる対応策をマニュアル化すれば、大学全体の教育改善につながるだろう。

②学生指導に関わる教職員（学科教員、教職支援室、学生支援室、保健室など）と連携することで、教育効果や学生満足度の向上が期待できる。またこうした改善は学生の実習先や就職先による本学への評価にも有益だろう。

提出日：2024 年 12 月 24 日
